

日 時：平成29年10月10日

場 所：商工会館 2階会議室

1 開会

会 長：4月から大幅なダイヤ改正、大型商業店舗への乗り入れなど、改善を行ってきたがこれまでの利用実績は、相当伸び悩みがあります。議会からも、デマンド型のタクシーを活用という意見もあり、本日はデマンド型交通につきまして、ぜひ皆さん方の意見をいただきたい。平群町としては、一つ目に町民の健康維持に働きかける公共交通、二つ目に通学や通園支援を通じて世代を超えた交流に寄与する公共交通、三つ目に町外の方が平群町に來られてコミュニティバスに乗っていただく、観光支援という観点での公共交通ということで、コミュニティバスを推奨しています。交通弱者の方の足の確保は、福祉の観点から、社会福祉協議会が行っております福祉有償運送の利用ということでセーフティネットをかけています。

2 前回の議事概要の確認

○事務局より「[資料-1](#)」の説明

3 コミュニティバスのH29年8月末利用実績報告

4 ゆめさとこども園のH29年8月末利用状況報告

5 新設停留所の利用状況（H29年4月～8月期）報告

○事務局より「[資料-2](#)」「[資料-3](#)」「[資料-4](#)」の説明

運輸支局：鉄道駅を利用の方はどの時間帯にどちらに行くのが多いのか教えていただきたい。來られている方が多いのか、それとも地域の方がどちらかに出られている方が多いのか。

事務局：いまのところそれにつきましては把握できておりません。

運輸支局：コミバスに期待する三つの役割の中に、町外から観光で來られる方もあげられていたので、把握したほうがよい。

副会長：前回もよく似たご質問ありました。住民がどのような動きをしているかも今後、把握していく必要がある。傾向としては始発地点と駅までの利用が一番多いので、そのあたりも留意していく必要があるのではないかと。

今年度、上半期は全体に利用者の数が減っているが、どのように分析していますか。

事務局：4月にルート改正を行い、「乗りやすくなった」「また乗りにくくなった」ということで、いままでどおり乗っている方、新しく乗る方もあり、少し変わった程度。利用者が、小学生、中学生、学生、あと自家用車をご利用されない方が多いということで、どうしても見えにくい部分がある。新時刻表を9月の広報で出したが、利用促進には至っていない。

利用促進として、いまアンケート調査の最中です。多く利用しているのが高齢者なので、かしのき荘で1カ月間、主な最終目的地もお聞きします、それをもとにもう少し検証ができた

いかと思っております。

婦人会 : 学校へ行くのに榎原はバス停留所があるが、越木塚は若井のところまで行かないといけないので遠いから利用できない。あのバスは越木塚まで行けませんよね。

事務局 : 何回かは検討したが、現在のバスでは細い道に入っていったりするのなかなか厳しい。

県地域交通課 : 新時刻表の利用案内図に「フリー乗車券の利用について」とありますが、フリー乗車券の売り上げは伸びているのでしょうか。

事務局 : 大体、月に1.5枚です。伸びは少ないので、もう少しPRしたい。

県地域交通課 : 今後はこちらのほうも集計していただきたい。

副会長 : かんぽの宿の支配人との話の状況はどうでしょうか。

事務局 : 支配人が交代し、話が進んでいない状況ですが、かんぽの宿のほうに話をしていきたい。

運輸支局 : P7ページ、基準はその時々で状況が変わってくるので、過去を踏襲するのではなく、現状と照らし合わせたうえで検討することが必要ではないか。

国土交通省のリーフレット、「もしも赤字の地域公共交通が廃止になったらどうしますか」で、先進国ではほとんどの国が補助金を出してまで鉄道を維持しています。日本の中で維持している鉄道とそうでない鉄道があれば、そうでないところは地域の地価が下がったり、一気に人口が減ってしまってどんどん活力がなくなってしまうということが如実にデータに表れています。赤字ということで廃止しまったら、スクールバスを買っての運行、商業施設に行けない買い物難民の方への対策、そういう交通以外のことに税金がかかってきます。総費用として交通需要に対して町がどれだけ負担しているかということと、いまの交通を維持するための補助金やコミュニティバスの委託費用を検討しないといけない。単に補助金がどれだけだからやめるとかの議論はおかしい。

西和警察署 : 単にバスを動かしているだけではなく、町としてイベントなどで町の皆さん、町外の皆さんが、バスに乗って行ってみようと思うような、バスに乗せるようなことも必要ではないか。イベント時の乗客の流れを把握されたらどうですか。

事務局 : 過去に何回か、観光の関係でツアーを行っており、その中で観光ツアーがある程度でき上がっています。今後はそれをもう少し表に出していきたい。

平群町も大きなイベントをやっていますが、土日のイベントが多い。このバスは土日運行していませんので、そここのところでも乗せきれていない。

平日のイベントについて今後「バスに乗ろう」ということが企画できればと思います。

身障者福祉会 : フリー乗車券は1カ月に限っている。1カ月ではなく、3カ月とか6カ月有効にすれば乗る回数がふえるのではないか。

事務局 : コミバス利用者は学校関係者が多いことから、8月とか12月などは利用がございません。4、5、6月に1枚ないし2枚の利用があるという状況です。その点等を検討した結果、1カ月ということになっておりますが、引き続き検討課題とします。

婦人会 : 以前、75歳以上は3000円か幾らかの乗り物券がありました。乗せる意味で、1年に1000円か2000円程度、町の財政でできる範囲でそういうものを出してもらって、それで乗ってみて、このバスは便利だなと思うのではないのでしょうか。

事務局 : 毎年、無料乗車日を1週間程度、設定しており、今回は11月13日から17日の間で無料乗車日を予定しています。停留所に無料乗車日の看板を貼ったり、広報も入れてコミバス利用PR

も兼ねてやらせていただきたい。

事務局：以前、3000円の助成があったことは認識しておりますが、財政が厳しい折、個人給付的なことができるかどうかということについてはまだまだ検討しなければならない。

自治連合会：7ページの利用者数の推移ですが、やり方の問題は非常に大事なことで、やり方がまずいから下がるといふこともあるのかもしれませんが、全体として乗っていただける方が減っていく状況の中でコミュニティバスをどのように考えるのか、過去にそういう話もあったのではないかと。コミュニティバスの継続や、コミュニティバスに対する基本的な考え方について、庁内あるいは公共交通会議の中で一定の見解なり申し合わせのようなものがあるのかどうか、もしあれば教えていただきたい。

事務局：この公共交通会議もあり、乗っていただけるような形を考えていく、事務局としては少しでもふえていく方法を皆さんと一緒に考えていきたい。いまのところ、意見をいろいろ出していただきながら答えを導いていければと思っています。

近 鉄：イベント開催について、何か協力できることがあれば協力しますので、その都度、相談していただければ。

6 主な停留所の利用について・新時刻表

○事務局より「[資料-5](#)」の説明

運輸支局：1点目は、お出かけされる方は1日に1カ所行くということはありません。この「主な停留所のご利用について」はよくできているのですが、2カ所選ぶときにどれとどれをつなげたらいいかということをお知らせするような、マイ時刻表をつくる講習会、何かお集まりのときにそういうことを教えてあげられる積極的な営業活動をされたらいい。

2点目は、いろいろな集いがあるときに、「これに乗ったら来られますよ」と。コミュニティバスだけでなく、路線バス、鉄道も一緒に入っていたら、もっと利用していただけるのではないかと。

事務局：今後、そういうことにつなげていきたい。

7 視察研修報告

○事務局より「[資料-6](#)」の説明

8 デマンド型交通事例

○事務局より「[資料-7](#)」の説明

運輸支局：新たな交通手段の検討、導入は、既存の交通では本当にできないのか考える必要がある。それで対応できないのであれば、対象となる方、対象となる地域、既存の鉄道、バス、タクシーといった交通の役割をどう与えていくかを検討すべきではないかと。

デマンドタクシーは便利そうに聞こえるが、予約しないと来てくれない、大勢乗りたいのに乗れないときもあるなど、需要と供給の量に合わせたものであって、決して安いタクシーではありません。フルデマンドにありがちな勘違は、安いタクシーを町がやってくれるという

ことです。需要が多く利用する人がふえてバスになると、予約しなくても時間になれば必ず来てくれるものになるというイメージを持っていただきたい。

デマンドタクシーだと、1日借り上げたり、タクシーの乗務員さんを1日張りつけたり、予約システムを動かすために予約センターで電話をとる人が必要であるといった見えないコストが結構かかっていますので、空気を運んでいるバスの「見えない化」にならないように注意が必要ではないか。

デマンドタクシーを導入の弊害として、既存の鉄道、バス、タクシーが衰退していく可能性があります。交通を検討していく順番として、まずは自活した鉄道、バス、タクシーの事業法によって経営されている方が成り立たないようであればそれを支援するような方法、それでも成り立たないようであれば交通空白地などを埋めていくような形で行政が町民の方の最低限の交通の足を確保することで行政が補完するということを検討いただきたい。

行政が赤字でも負担しないといけない理由は、公共交通がなくなったらどうするのかということ、ほかの行政分野で支出しているコストと交通に対して補完すべき、捻出すべき税金を比べていただければいい。

タクシー協会：多くの自治体で予約型乗り合いタクシーを導入しているが、一部には市町村が多大な財政負担をするなど持続性に懸念が出ている、使い勝手が悪いなどで利用が低迷しているようなケースも見受けられます。

もし導入するのであれば、まず一番にきめ細かなニーズの把握が必要ではないか。その後、幹線交通機関の活性化も視野に入れて、地域住民に当事者意識を持ってもらい利用促進を図って、まちづくりと一体での地域交通を考えられればといい。

地域住民の当事者意識が非常に大切なことで、自治会の中に公共交通対策委員会を設置して自治会、市、運行事業者の三者での協議を継続的に実施して高い利用率を維持しているケース、地域の住民が計画段階から主体的にかかわり、有識者、交通事業者、行政が住民目線で協同して地域にふさわしい背丈に合った持続可能なコミュニティ交通を実現しているケースも報告されています。

地域により、本来のタクシーとしての利点を活かした上手な利活用のほうが合理的な状況も考えられるので、ドアツードアのタクシーサービスも地域公共交通体系の中に、適時、適切に提供できる仕組みとして考えていただきたい。

NCバス：路線バス、コミュニティバスが幹線として走っていて、それにプラスして空白地域に少し足を伸ばすことで、空白地域から幹線の路線バスに乗り継げるような形で補完的な機能があれば非常に有効だと思います。

完全デマンドは、路線バスやコミュニティバスがなくなってしまって、代替交通としてフルデマンドしか残らないということが懸念されます。

NCバスは路線バスも運行していますが、路線バスもお客様は大分、減っており赤字路線になっています。路線に乗っていただいていたお客様も、デマンドタクシーのほうがドアツードアで便利だということで移行しますと、ますます路線バスの赤字が拡大してバスそのものが維持できなくなり、公共交通が非常に衰退してしまうことを懸念しております。

平群町にしかNCバスはございません。NCバスはほかの町村では走っておりません。非常に安いコストで運行できているいまの状況をご理解いただきたい。

不動産鑑定をするとき、駅からの距離とか商業施設からの距離など、いろいろな指標で鑑定するが、バス停があるかないかということも鑑定をする資料になるらしいです。公共交通があることは地域にとっていいこともあるのではないかと。平群町の発展、地域のまちづくりには、公共交通があることで発展していく。路線バスが赤字でもコミュニティバスさんと連携しながら、平群町の大切なインフラであるバス交通を守っていきたい。

ボランティア：デマンド、公共交通について意見を老人福祉センターで集めました。

平群町には有償の移送サービスはあっても、認定を受けた方々しか利用できない、認定を受けていない方でも利用できる交通手段があればいいなという意見です。

現在、走っているバスでも足が悪くてバス停まで行けない方もおられるということです。

まずは家から駅に行ける便があればいいなということです。

平群町の長寿会のほうで、お出かけ健康法を実践しておりますが、そういう目的の場所に到着するのに、いまのバスでは時間がかかりすぎる、行くことは行けても、帰りの時間がうまく合わないのが帰るのに苦労する。

バスは平群町、坂が多くて道路も狭く、いまのバスでは行き止まりや狭すぎて方向転換ができないところもありますので、小さな車両で何人か乗ればいい。

デマンドになるのであれば、100円でなくてもいいという意見もありました。ある程度区分して、その分については100円とか200円にこだわらないので料金を取っていただいても結構ですと。300円でもいいですよという意見もありました。

いま平群町の中で一番大きな団体は長寿会です、長寿会の皆さんからもいろいろな意見を聞いて、自治連合会の皆さんにもいろいろな意見を聞いて進めていったらどうか。

いろいろなところがお互いに協力し、いろいろ協議をしながら、お互いが共存できる方向に、いままでのいろいろな制度とこれからやろうとしていることが相反することがない方向を目指してもらいたい。

自治連合会：デマンドは路線バスやコミュニティバスとの兼ね合いをどう考えるのか。結局は財政の問題になる。平群町ではどのようなデマンドがニーズが一番合うのか、地理的な条件も含めて検討しなければなりません、いずれにしても財政的な負担はかなり大きくなるのではないかと。デマンドタクシーのあり方、あるいは財政的な観点からの問題がもう少し議論しなければならない。この会議の中でいろいろな角度から検討されていかなければならない。

婦人会：どちらも温存するということはできないのですか。

いまのバスを利用されているのは高齢者が多いと思います。近大病院に行くのにこのデマンドがあれば、直通で連れて行ってもらえれば楽だなと思いました。

バスを利用してかしのき荘を毎日のように利用されている人などは1日に往復200円かかるそうですが、デマンドになれば料金的にも高くなります。

タクシー協会：デマンドは、タクシー車両を使っていますが、バスと同じ乗り合い事業であり、セダンであっても、ほかの方と乗り合って行っていただくものです。目的地も二つ、三つになる可能性がありますので、直通で行けるかどうかはわかりません。そのあたりも踏まえて、どれが住民の皆さんにとって一番便利なのか、あるいは利便性が高いのかということを検討して決めていただきたい。

県地域交通課：デマンド型を検討するにあたり、既存の交通サービスとのすみ分けをしっかりとっていく

必要があること、相互補完するような関係性をつくっていくことが大事なので、移動需要のニーズを住民の方々からしっかりと聞き取り等が必要になってくる。

会長：公共交通は、財政の問題でもあります。一番はまちづくりの問題である。

地域の重要な公共交通である鉄道、バス、タクシーを守っていかなければならない。

平群町ではいま「健康に働きかけるコミュニティバス」、奈良県は「健康長寿日本一を目指す」と荒井知事もおっしゃっています。平群町も「健康長寿奈良県一のまちを目指そう」と言っています。体が弱って歩きにくい、坂も多い、それでもコミュニティバスを利用するために、バス停まで100mと少し遠いけれども頑張っ歩いていただければと思っております。お出かけ健康法で地域の皆さんが元気にいろいろなところで交流を図られることがまちづくりの基本ではないか。

デマンドタクシーはドアツードアで非常に便利だと言われていますが、これは非常に便利すぎて、平群町のまちづくりには適していないのではないかと考えています。それを導入することによりNCバス、コミュニティバスの乗車率がますます悪くなって、極端に言えば地域の幹線の交通網がなくなってしまう危険性もあるのではないかと考えています。

この問題につきましてはもう少し議論を重ねる必要があるのではないかと考えています。

平成29年度も残り半分しかなく、来年以降、コミュニティバスをどうしていくかという結論を早く出していかねばなりません。3200万円の費用をかけて行っておりますコミュニティバスですが、今年度から国の補助金がまったくなく、来年はどうするのか。

いまは、もう少しデマンドに関して議論が必要なので、コミュニティバスをもう少しやってみようということで庁内議論をし、考えているところです。

次の公共交通会議の中で事務局として提案させていただくこととなります。その点はこの場で皆さんにご了解をいただいております。

いま3台を3200万円で運行しておりますが、台数を削減するような形での運行もしていかねばならないのではないかと考えております。

公共交通連携計画ですが、平成23年度から平成26年度の間で連携計画を終了し、いまはそれを準用して行っています。この中身を少し見直し、次回にお諮りさせていただきたい。

デマンドタクシーにつきましては、もう少し議論を重ねる必要がございます。28年度は最低需要基準に達せず、29年度もこのままいけば最低需要基準に達しない中で、新たな提案をしていく必要が生じてきております。2年連続で最低需要基準に達しない場合は、廃止もしくは大幅な見直しということになっております。

副会長：すぐに結論が出る問題ではない。いろいろなことも考えて、デマンドに移行するのかしないのか、まだまだ議論する余地がありますので、引き続き、議論をお願いしたい。

9 その他

○事務局より運転免許証返納状況の説明

以上